

## 2023 杭州アジアパラ 総評

日本パラ陸上競技連盟  
強化委員長 穴戸英樹

2023 杭州アジアパラ競技大会は、40 ヶ国で約 650 名が参加し開催され、日本は 45 名の代表選手を派遣しました。

今大会においては、金メダル 9、銀メダル 12、銅メダル 13 で総メダル数は 34 個となり、メダルランキングでは金メダルランキング 6 位、総メダル数 4 位となっています。

内訳としては、立位短距離 12/17、立位跳躍 3/7、立位中距離 1/1、投擲 3/6、車いす 6/13、知的 8/10（分母はのべ参加数）とユニバーサルリレー 1 となり、各パートで幅広い活躍がみられました。

今回の特徴としては、若い選手がメダル獲得の中心となっており、ジャパンライジングスタープロジェクト出身選手の活躍が目立ちました。

また、ライバル対決も見所があり、T52 対決は伊藤竜也が 100m 金メダル・400m 銀メダルで上与那原寛和が 400m 銀メダル。T34 対決は北浦春香が 100m・800m 銀メダルで小野寺萌恵が 100m 銅メダル、吉田彩乃もメダルは逃したものの着実にタイムを上げてきています。

特に注目を集めたのが、T64 の井谷俊介と大島健吾の対決でした。先に行われた 200m では、井谷がアジアレコードで金メダル、大島は銀メダルでした。100m では、逆に大島がアジアレコードで金メダル、井谷が銀メダルという結果となり、会場も大いに盛り上がりを見せました。

更に知的パートでは、男子 1500m では大河内健太が金メダル、中川大輔が銀メダル。同じく女子 1500m でも山本萌恵子が金メダル、阿利美咲が銀メダルを獲得しました。

女子走幅跳でも坂井園美が金メダル、川口梨央が銀メダルと上位を独占しました。また、砲丸投の堀玲那はアジアレコードで金メダルを獲得しました。

その他にも T63 の走幅跳は 3 人の選手がエントリーし、なかでも近藤元が金メダルを獲得しました。

今大会は、選手が互いに競い合い、成長している姿が見えています。また、ベテラン勢の姿をみて若手が学んでいる場面も多く見受けられる大会でもありました。

パリ世界パラ陸上競技選手権大会後の課題としていた、若い選手の経験や海外大会の経験値が不足し、過度に緊張感をする事への克服にも繋がっていると感じています。

ただ、更に試合経験を積み重ね、日ごろからのコンディショニングの管理について、自ら行えるようになっていかなければならないという課題も残っています。

そして、今後の活躍の場を、神戸世界パラ陸上競技選手権大会やパリパラリンピック、更にはロサンゼルスへも移して行って欲しいと願っており、十分期待の持てる大会となりました。

各国の情勢としては、7 月パリで開催された世界選手権では、中国がメダルランキングのトップに立ちました。総合メダルランキングでは上位 20 位以内にウズベキスタン、タイ、イラン、インドのアジア 5 カ国が名を連ねており、杭州アジアパラにおいても同様に、中国を筆頭にハイレベルな戦いが求められるものとなりました。

今後は、来年のパリパラリンピックへ向け、各国がレベルアップを図ってくることは確実であり、我々も世界の情勢をしっかりと見据え、強化体制の見直しと選手強化のプロセスをスタッフと連盟が一丸となって遂行していかなければならないと強く感じております。